



今回の会議の進め方 と 前回の会議における指摘事項への対応

令和6年度 第2回 小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会
令和6年12月3日

今回の会議の進め方



令和6年度

令和7年度

第1回 科学委員会 (令和6年7月25日)

議事

- (1) 保全管理の検討体制について
- (2) 保全管理の取組状況の報告
 - ① 管理計画の改定について
 - ② 令和5年度の取組状況
 - ③ 令和5年度の科学委員会における助言事項への対応
- (3) その他

各種取組の実施

第2回 科学委員会 (令和6年12月3日)

今回

議事

- (1) 第2回科学委員会の進め方
- (2) 保全管理の取組状況の報告
 - ① 下部WGの検討状況
 - ② 母島部会の継続課題
 - ③ アクションプランに掲げた取組の状況
- (3) 世界自然遺産の保全管理に関する今後の検討体制
- (4) その他

助言事項の取りまとめ

次年度以降の取組へ反映



前回の会議（令和6年7月25日）における指摘事項への対応（1／3）

（1）世界自然遺産小笠原諸島の保全管理に関する 検討体制 について

項目	主な意見等	対応状況・方針
会議の在り方について	<ul style="list-style-type: none"> 小笠原諸島の保全管理に関して30以上の会議があり、それぞれ重要だが、関係者がそれらすべてに参加するのは負担が大きい。科学委員会で、会議の在り方や合意形成の在り方も取り扱うべき。 次回の科学委員会で、今後どのような部会やWGが必要か議論する。 会議ごとに委員からの指摘等をまとめた議事概要を作成してほしい。 横断的な議論を行うために、保護増殖事業や小規模な外来種対策等事業化されていない各機関の取組みについても、網羅的に最新の情報を共有していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後のWG等の検討体制について、議事（3）で議論。 会議ごとの委員からの意見等をまとめた議事概要を作成し、小笠原世界遺産センターHPに掲載。 保護増殖事業に関する検討会を含めた保全管理に関する主な検討会等の設置状況を取りまとめ（資料1別添1）。 対策において進捗の変化や進展があった場合、随時メールで情報共有を行う。必要な事項については、科学委員会の場で報告する。
外来ネズミ対策について	<ul style="list-style-type: none"> 広い分類群に影響し、個別で対処できない事案。遺産管理全体の方針にも関わるものであるため、ネズミ対策のグランドデザインに関して議論する場が必要である。 低密度管理をいつまで続けるのかといったことや第二世代殺鼠剤の導入等の検討を行うために一刻も早くWG等を設置すべき。 兄島のネズミ対策を進めながら、次回の科学委員会で小笠原諸島全体のネズミ対策について議論したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外来ネズミ対策に関する今後の検討体制について、議事（3）で議論。



前回の会議（令和6年7月25日）における指摘事項への対応（2/3）

（2）世界自然遺産小笠原諸島の保全管理に関する 取組状況の報告 に関して

項目	主な意見等	対応状況・方針
世界自然遺産小笠原諸島管理計画の改定について	<ul style="list-style-type: none"> 遺産価値の再評価については管理計画の中で長期目標に位置づけられており、西之島は地形・地質の分野で世界的な注目度が上がっているため、徐々にでも再評価の議論をしていくべきである。 拡大した西之島の多くが遺産地域に入っておらず、他にも遺産地域に含めるべき地域があれば議論したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境省の競争的研究資金において、西之島における地形・地質の知見の収集に係る研究プロジェクト（R6～R8）を新たに2件採択。 再評価のあり方等については、継続審議事項と考えています。ご助言いただけるようであれば、議事（4）で議論。
新たな外来種の侵入・拡大への対策について	<ul style="list-style-type: none"> 今年6月に母島で外来種のアシジロヒラフシアリが初確認されたことを受け、ルビーロウムシを介したスヌ病を防ぐために初期対応をしっかりとお願いしたい。 緊急対応のための初動について、2014年に防災訓練のような機会を設けたことがある。定期的にそのような集まりを持つていくことが必要である。 研究者だけで話していても理解が得られないため、地元を中心に議論を進めていく必要がある。 外来種の持ち込みの監視とモニタリングも必要。母島だけでなく小笠原全体の課題として、新たな外来種への対策については科学委員会でも議論するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> アシジロヒラフシアリが確認された地点周辺における外来種モニタリング調査を実施。 新たな外来種の侵入・拡大への対策に関する今後の検討体制について、議事（3）で議論。
オガサワラシジミについて	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅の基準について議論をし、十分な証拠があれば絶滅宣言を出す責任がある。IUCNへ提出するレポートにも何らかに記載すべきであり、科学委員会の中で議論する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> レッドリスト（第5次環境省レッドリスト）は、「レッドリスト作成の手引」を基準として、絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会と分類群別の分科会から構成される体制によって評価を実施し、作成及び公表を行うこととされており、本委員会で絶滅を判断するものではない。
令和5年度の科学委員会における助言事項への対応	<ul style="list-style-type: none"> 外来ネズミ対策に関する対応方針の記載について、兄島における外来ネズミ対策と陸産貝類保全WGでの議論がうまく書き分けられていないので、再考してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 指摘を踏まえ、第1回科学委員会で提示した資料における外来ネズミ対策に関する対応方針の記載を修正（資料1別添2）。

前回の会議（令和6年7月25日）における指摘事項への対応（3 / 3）

（3）その他

項目	主な意見等	対応状況・方針
小笠原世界遺産センターHPについて	<ul style="list-style-type: none"> 休止中となっているホームページを早急に復旧させるとともに、少なくとも科学委員は関係者ページにおいて各管理機関の事業報告書を閲覧できるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年8月にHP復旧。 科学委員への事業報告書の送付を行う。 関係者による事業報告書の閲覧については、議事（4）で議論。
リソースの拡充について	<ul style="list-style-type: none"> 人員や予算をさらに増やす必要があり、内部の限られた予算を振り分けるだけでなく、外部の予算を獲得していただくことも必要。基金や他の世界遺産地域にあるような財団の設立について、小笠原諸島でも検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 基金や財団の設立については、継続審議事項と考えています。ご助言いただけるようであれば、議事（4）で議論。
希少種の保全について	<ul style="list-style-type: none"> 保護増殖事業対象種より数が少なくなっている植物種もあるため、リスト等で共有できるとよい。 保護増殖事業において系統保存株が多くあるが、現地に再導入できない状況にある。かつて作成された再導入に関するガイドラインも参考にしながら、種子や花粉の導入から始めてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業対象種以外の種については随時情報を収集。情報のとりまとめ方法について、ご助言いただけるようであれば、議事（4）で議論。 地元保護団体の協力も受け、系統保存株由来の種子の再導入について検討しており、種子の消毒及び発芽試験に向けて調整中。
干ばつによる生物への影響について	<ul style="list-style-type: none"> 希少生物の減少には外来種も影響しているが、干ばつ等の気象害も強く影響する。特に絶滅に近い個体群においては、気象害が減少を早める要因となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年の干ばつによる生物等への影響について、関係機関等から情報を収集。 気候変動への対応について、ご助言いただけるようであれば、議事（4）で議論。